

カレッジ通信

編集・発行

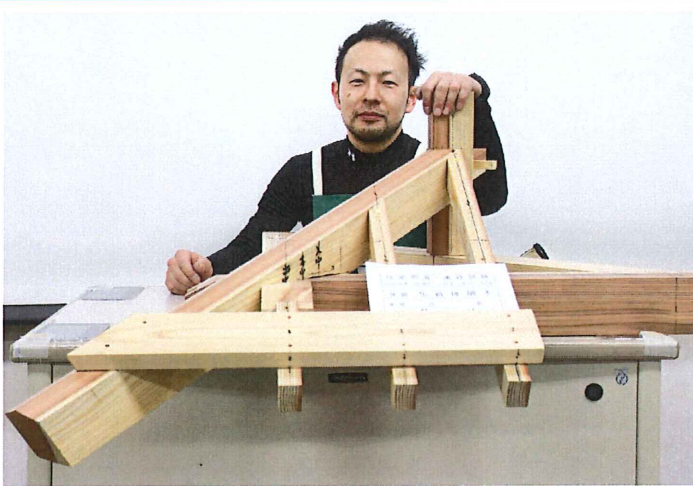
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

大工技術が学べて建築士の受験準備もできた！ 自分のためになった充実の2年間でした

東京都職業能力開発協会会長賞 第25期生 葛西 佳二さん インタビュー



試験技術実技「化粧棒
と隅木」の作品
後に照査技能

建築カレッジをどこで知りましたか。入学動機は？
職長教育や足場作業主

東京建築カレッジの第25期生10人が3月26日、修了式を迎えました。一人ひとりの人生にとって、かけがえのない2年間になったことでしょう。学科・実技両面で優秀な成績を収め、修了生に贈られる賞の中で最上位の東京都職業能力開発協会会長賞を受賞した葛西佳二さん（39歳）に、入学のきっかけ、カレッジの学びの魅力、これからの抱負を聞きました。

任者などの講習時に、池袋校舎に何度か行って、ポスターで知りました。日本の伝統工法や日本の大工技術に興味がありました。また、建築士の資格を取りたかったこともあり、どちらか同時に勉強できる環境が作れると思い、入学することにしました。

在学中に印象に残っていること

1年次の「カレッジフレームム」は面白かったです。あれの違うバージョン（難しいバージョン）が2年次にあったらまた面白いかなと思います。

優秀賞「木漏れ陽の小屋」



25期生 卒制作品を公開展示 東京・大久保「けんせつプラザ東京」

4月下旬から全3作品

第25期生の卒業制作作品「キッチン」「木漏れ陽の小屋」「変化する椅子」が4月下旬から、本校の母体、東京土建一般労働組合の本部会館「けんせつプラザ東京」1階に展示されることになりました。



JR総武線 大久保駅から徒歩3分。平日など会館の開館日に観覧することができます。卒制発表「予稿集」も配布予定です（数に限りがあります）。
入場無料。

す。

林業研修は1日だけでしたが、勉強になりました。1週間くらい泊まりであつても良いと思います。金田正夫先生の授業で聞いた新月伐採や、穴太（あのおう）衆のお話も興味深く、印象に残っています。

新入生26期生には、若い子が多かったので、

建築カレッジ 第25期生



修了式で決意表明する葛西さん

建築カレッジは、各々勤めている会社と同じで、いろんな年齢、立場の人がいて、一緒に学ぶところ。現場と一緒に学ぶことができれば、だいたいどんな会社でもやっていくと、というメッセージでした。また、遊びで来てるような大学生みたいな感じの同級生（25期生）の意識を正そうという意図もありました。それぞれ会社の名を背負って学校に来るという意識があれば、そこまでバカな行動はしないと思います。自分、一番ダメなのは、自分の仕事を断つてでも、学校に勉強に来てる人たちがいるので、その人たちの足を

学校が終わってから仕事をする毎日でした。学校に行く前の日が特につらく、次の日に学校に行けるように、仕事を詰めてやったり、徹夜でやったり。仕事を断って、仕事を減らし、売り上げが下がることがも覚悟の上でした。これは正直、両立という感じでは

引つ張ったり、邪魔になるようなことはしてはいけないということをお伝えした。仕事との両立は？



「金輪継手」製作準備（2020年6月19日）

卒業制作は、本当はもっと大きなサイズの物を造りたかったのですが「池袋校舎3階の教室に入る大きさで」というルールがあり残念でした。せめて地下で展示できれば、25期全員で、1つの大きな建造物を作れたのでは

卒業制作は、本当はもっと大きなサイズの物を造りたかったのですが「池袋校舎3階の教室に入る大きさで」というルールがあり残念でした。せめて地下で展示できれば、25期全員で、1つの大きな建造物を作れたのでは



「実習棟」屋根葺き作業終了（2021年2月20日）

細かい造作なども建築ですが、大工の醍醐味というのは、やはり大きな材で、見る人を圧倒するような建造物を造れることだと思っています。授業の流れ的にも、1年次に小屋組み、2階建ての実習棟を作り、2年次に、升（ます）から始まり、風呂イス、四方転び踏み台、化粧棒隅木と来たので、最後はまた建造物でしめる。本当はそんな感じが理想でした。

「陽だまりの小屋」改め「木漏れ陽の小屋」は、3階に入るサイズで、あのサイズでもきれいに見えるよう、各部材の大きさのバランスに注意を払い設計しました。でも広い空間や、外に置くと、やはり小さい、となっちゃうと思っています。

これからの夢

現場のトイレ問題も提起 第3回OJT報告会

年3回、授業として実施のOJT（現場実習）報告会の3回目が3月5日、池袋校舎で行われました。全体発表では住宅建築現場のトイレの問題が女性大工の研修生から提起されました。男女別設置以前に、コンビニ利用で間に合わせる現場が少なくない実態が出され、トイレ整備を後回しにする意識の低さを指摘する声が多くなりました。学校長は「カレッジ母体の東京土建の役割が問われる」と発言しました。



分散会では、研修生が進行役、記録係、報告係を分担し、組織運営の方を学ばせていただきます。

1年生の 授業から

学科・実技で進級試験

地道な学習、練習が、左右し、来月を榮えます。

3月25日、江東実習場では1年生（26期生）の進級試験が学科・実技の双方で行われました。1年間の学びの理解度を確認するものです。実技では、課題図面を読み取り、材料に正確な墨付けを行うことが要求されます。刻みでは手道具の手入れがきちんと行われているかどうかで、施工の精度に差が出ます。これらは大工技術の基本ですが、建築施工全体に通じるものです。大工技術を通して建築の基礎を学ぶカレッジ教育の真髄と言えます。





入学13人、修了10人は過去最少。クラス運営委員長の石田凌さんは、体調不良（発熱）のため修了式欠席でした。

25期生 決意表明

3月26日（土曜）修了式

鬼久保 雅也

て、いろんな建築に携わってあげたいと思います。いつか一度でいいのでやってみたいことは、自分が設計した家で使う木材を、施主と一緒に山に選びに行き、新月伐採、自然乾燥、それを使って、手刻みで自分が建てる。そんなことが、もし、もしできたらと憧れます。（3月28日夜）

設計の仕事がしたくて建築の道に入りました。まずは現場を知らなければと監督の仕事に就きました。先生方から教わったことを忘れずに頑張ります。

葛西 佳二

建築士の資格を取

筒井 啓翔

2年間あつという間でした。高校新卒の同い年は3人だけ、周りは年上ばかりでしたが、皆さんやさしくしてくれました。思い出を大切にがんばります。みんなでもまた仕事できたらいいな、と思います。

中井 康真

2年間は長いな、と思った時もありましたが、一番最後は、もっと時間が欲しいなど。（カレッジは）

小林 薫

カレッジに女大工として名を残せるようがんばっています。この学校に来れてほんとうによかったと思っています。

高松 勇樹

2年間終わってやっと仕事に専念できる。やりたいことはいっぱいあります。自分で営業をかけて、さらに仕事を増やした

い。

都議会議員と意見交換

東京都が3月16日まで意見を公募した「第11次東京都職業能力開発計画（案）」について、3月12日、日野区選出の清水とし子東京都議会議員が来校し、小林謙二学校長、橋本英夫教務運営委員、熊切健二専務理事、佐藤広平事務局長と意見交換を行いました。

清水都議は「職業訓練等の支援策拡充を求めるチャンス」と強調、本校側は「技能者育成を担う多くは零細事業者なので雇用保険加入者だけに助成対象を狭める現行制度には問題がある」と指摘しました。



清水都議は「国の施策で足りないものを東京都が独自に出すようにしていかなければ」と述べました。

住宅自由設計 1/50 模型完成

本校では、1年次後半から2年次にかけて複数の科目連携型の住宅自由設計の授業があります。自分が想定した施主家族のために、世田谷区内の現実の敷地条件で、どのような住宅を建てるか、各人が自由設計するものです。

平面プランを100分の1、50分の1サイズの模型に仕上げ、設計の善し悪しを確認します。理想の住まいと環境、法規制との関係を実践的に学ぶ授業です。

2年生の授業から



3月18日の授業で模型を完成させて、各自のプランの発表も行いました

第25期生 卒業制作作品



上から、「木漏れ陽の小屋」「キッチン」「変化する椅子」

4月下旬から「けんせつプラザ東京」で公開展示します。

手わざを見せてもら
うことが大事ですよ。
古名 優明
自分が1年生から
2年生に進級すると
きに、両親からある
先生に「挨拶に行け」
と言われました。そ
こでは「自分に厳し
く」と言われました。
最初はこういう意味
かな、わかりません
でした。2年生の後
半、棒隅木の授業の
ときにすごく怒られ
て、やっと気づけま
した。自分に甘かつ

たな、と。でもそこ
じゃ遅いんです。1
年生には「早めに行
動を！」と伝えたい
です。
松本 隼輝
まずは仕事をしつ
かりやって、真の大
工になります。入学
したときに子どもが
生まれて、来月で2
歳、2年経つたんだ
な、という思いです。
あつという間です。
たくさんさんのことを教
えてくれた先生方、
遅い時間までつきあつ

てくれた教務の方々、
カレッジに送り出し
てくれた事業所の皆
様に感謝の気持ちで
いっぱいです。
吉田 真巳
私たちはコロナウ
イルスに振り回され
た期でした。私自身
もコロナ陽性になり、
昨日までが自宅待機
期間でした。カレッ
ジには会社の指示で
入ったのですが、色々
な世代と出会い、自
分が考えていなかっ
たこと、他の人と自

分の違い、現場では
戸惑うことが多かつ
た職人ならではのコ
ミュニケーションの
仕方など、たくさん
のことを学ぶことが
できました。
イベントができず、
26期生と交流の機会
が少なかつたのは残
念ですが、仲間と出
会えて、うれしかつ
た。これだ、という
目標はまだ見つかり
ませんが、ものづく
りにかかわる人間と
して歩んでいきたい
と思います。

関 昌孝 先生 逝去

東京建築カレッジの草創期から学校の発展に尽力し、2016年度まで教務運営委員を務めてこられた、関 昌孝 先生(一級建築士、構造設計)が3月19日、お亡くなりになりました。75歳でした。関先生は担当科目だけでなく、学校運営やカレッジ生の個別対応に熱心に関わってきました。多くの卒業生にとって忘れがたい方でした。先生の功績に敬意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



第19期生の卒業制作発表会(2016年2月)。池袋校舎の事務室には関先生の机があり、教務スタッフと一緒に学校の運営を考え行動していました。関昌彦教務運営委員はご長男です。

第27期生は22人

4月6日(水)に入学式を迎える新1年生(第27期生)は22人です。

男性20人・女性2人、高校新卒は8人です。応募のきっかけは、事業主の働きかけ6人(このうち2人がハローワーク「求人票(高卒)」経由の新卒採用者)、家族や親戚、職場同僚の働きかけ6人、工業高校建築科の先生4人、東京建築カレッジのwebサイト4人、東京土建の活動参加(支部主催カレッジ見学会、二級建築士受験準備講座)2人です。コロナ禍の影響や建築の仕事への憧れなどで他業界から移ってきた人が7人います。